

## 平成29年度 第4回江別市行政評価外部評価委員会 会議録（要点筆記）

日 時：平成29年10月24日（火）14:30～16:00

場 所：江別市民会館 32号室

出席委員：井上宏子委員長、千里政文副委員長、山下善隆委員、菅原涼子委員  
武岡明子委員、小原克嘉委員、小野寺さゆみ委員（計7名）

欠席委員：0名

事務局：企画政策部北川部長、企画政策部福島次長  
政策推進課中島参事、天明屋主査、坪松主査、山口主事

傍聴者：2名

### 会議概要

#### 1 開会

##### ○井上委員長

前回、第3回行政評価外部評価委員会において、「指標」についての考え方に対する発言をいただいた。事務局から「成果指標」の考え方について資料1を配付しているため、説明願う。

##### ○事務局

前回、第3回行政評価外部評価委員会において、「成果指標」の設定の考え方について議論となったため、補足説明をさせていただきたい。

資料1の「【えべつ未来戦略】上位目標（指標）」、「【事務事業評価表】下位目標（指標）」は、えべつ未来戦略策定時に掲げられた指標となっている。

最終的には、計画終了時である平成30年度までに「【えべつ未来戦略】上位目標（指標）」に定められた目標値まで上昇させることを目標としている。今回、外部評価をしていただいている事務事業評価には、「【事務事業評価表】下位目標（指標）」が記載されており、これらの事務事業の成果指標が全体として上昇すると、「【えべつ未来戦略】上位目標（指標）」にも上位貢献するという考え方で計画を進めている。

戦略4「シティプロモート推進事業」に、「江別市の認知度」、「北海道内順位」という項目については共通の指標がひとつだけあるが、原則的に「えべつ未来戦略」と「事務事業評価表」の指標は違うものを設定しており、各事務事業では設定した成果指標の上昇を目指し、業務が進められている。

##### ○井上委員長

今後、3年間の総括の際に、事務事業評価表の作り込みなどについての意見を提案いただきたいと思う。

## 2 議事

### (1) 平成29年度行政評価外部評価委員会におけるヒアリング

#### ○井上委員長

本日はヒアリング対象の6事業のうち、1事業についてヒアリングを実施していく。

戦略4-A4の事業No.6154「ふるさと納税普及促進事業」のヒアリングを開始する。

#### ○事務局

担当課の紹介をさせていただく。担当課は、契約管財課管財係である。

本日、ヒアリングに出席いただいているのは、阿部課長、長谷川係長である。

#### ○井上委員長

では、「平成29年度第1回・第2回行政評価外部評価委員会 意見要旨」から照会事項を読み上げるので、担当課はこの照会事項についてご回答願う。

照会事項の1点目、納税額増が事業の本来の目的ではないことは分かるが、二次的効果である「納税額」を指標に追記することを検討すべきである。

#### ○契約管財課 管財係

当初「ふるさと納税普及促進事業」は、上位計画である総合計画において、シティプロモート推進のための事業のひとつに位置づけられており、シティプロモートを主たる目的としている。そのため、複利的な効果である納税寄附額は現在「成果指標」としていないが、外部評価委員会から指摘をいただき、事業の効果を検証する重要な数値であると認識している。また、自主財源の確保という意味でも市にとって重要な数値であることから、参考指標という形で追記する、事務事業評価表に記載するなど事務局と調整し、何らかの形で追記することを検討していきたい。

#### ○井上委員長

2点目の照会事項は、「意図」をより具体的に記載すべきではないか。

#### ○契約管財課 管財係

江別市における「ふるさと納税普及促進事業」が、シティプロモートを目的としていることが分かりにくい点があったため、より事業の目的が分かりやすいよう、具体的に表現していくことを検討していきたい。

#### ○井上委員長

委員会としての指摘事項は以上となる。各委員から説明に対して不明な点、質問事項があれば発言願う。

#### ○山下委員

「成果指標」が「ふるさと納税者数」となっており、市として納税者数が増えることは良い、参考程度でも納税金額が多い方が良いと考えていると思う。しかし、「手段」が「PRを行う」とあいまいな記載であり、「活動指標」も「ふるさと納税関連ウェブサイトへのアクセス件数」となっている。積極的にふるさと納税を促す活動を考えて実施する必要性はないのか。事業費を相当かけているので、検討してはどうか。

例えば、担当課評価(2)「上位貢献度」に「市内外に江別市のPRができることから貢

献度は大きい」と記載があるが、そのPRが具体的にどのような策があるのかを深堀し、具体策としてどのようなことを行うのかを決め、どれだけ行ったのかを「活動指標」にするとよりわかりやすい評価表になると考えるので、検討いただきたい。

#### ○井上委員長

「手段」の手法をより具体的に記載をすると、より分かりやすくなる。

「活動指標」の「ふるさと納税関連ウェブサイトへのアクセス件数」が平成26年度から平成27年度にかけて一気に上がっている。ふるさと納税者の比率を見ると、7%ほどしか上がっていない。アクセスすることでPRが図られているのか、アクセスした結果納税することになった、といった検証は行っているのか。

#### ○契約管財課 管財係

アクセス件数の推移に対するふるさと納税者数の分析だが、平成26年度から平成27年度にかけてアクセス件数が大幅に増加している。原因はインターネット上で申込ができるポータルサイトに平成27年度に登録を開始したことである。内訳としては、江別市公式ホームページへのアクセス件数とポータルサイトへのアクセス件数を足した数値となっている。その結果、平成26年度から平成27年度にかけて大幅に増加している。

平成27年度から平成28年度にかけては、アクセス件数はやや減少しているが、逆に「成果指標」である「ふるさと納税者数」は増加している。全国的にふるさと納税が毎年過熱して広まっており、ふるさと納税に取組む自治体が増加したため、ポータルサイト内での競争が激しくなっている。ポータルサイト全体の件数は増えているが、江別市のアクセス件数自体がやや減少している。それに対し、ふるさと納税件数が増加している理由として、憶測の部分ではあるが、リピーターの増加や既に江別市と決めてアクセスをしている方が増加していることだと分析している。

#### ○小野寺委員

事務事業評価表を読んだ際に、この事業がどのような形で行われているのかを、市民の立場で読み取ることが難しい。

総事業費がどのくらいかかっており、最終的にコストを削減することが困難であると記載はあるが、実質的な金額が何も分からない中では、江別市への信頼感しか頼るものがない。自己評価をした際には、他者から見られるということを意識し、読み手が判断できる資料にすることが重要だと思う。

市町村間でふるさと納税の返礼品に対する競争が過熱していることは、市民の立場としても報道で目にすることがある。撤退する市町村もあるという話も目にしている中、江別市はどのくらいの返礼を行っているのか。1万円辺りどのくらいコストがかかっているかは非常に興味のあるところである。そういった部分についても明らかにしていく様な内容が記載していると信頼性が増すと感じる。読んだ人が判断できるような数値などを盛り込むと安心感もある。

#### ○契約管財課 管財係

現段階において寄附額の記載がないことも相まっての話だが、担当課としても分かりやす

い表現で市民に理解してもらえよう進めていきたいと考えている。寄附額の経緯の記載も含めて、明らかにできる部分については、どのような形にしていくかも検討していく。

#### ○井上委員長

他に要望、意見はないか。

#### ○小野寺委員

先程の補足になるが、担当課評価（3）「成果動向及び原因分析」に「順調に成果が上がっている」、「見直す」、「寄附者にとってより江別市にふるさと納税しやすい制度となった」などの記載があるが、具体的にどのようなことを実施しての結果なのかを記載すると分かりやすい。

#### ○井上委員長

様々な手法でPRすることのだが、ふるさと納税に関してはホームページを使用する。それ以外に、江別市独自ではなく、北海道や近隣市町村と一緒にイベントに参加することもプロモートとして行う活動に入っているのか。

#### ○契約管財課 管財係

近隣市町村と一緒にには行っていない。あくまでも江別市独自での形になる。PRのツールは様々あり、ホームページが一番大きい効果がある。また、新聞広告という方法もある。

去年はコープさっぽろの「Choco-tto」という冊子で江別市をPRする機会があり、江別市に来るバスツアーの参加者にふるさと納税をしないかというPRをさせていただいた。色々な機会を見てPRしていきたいと考えている。

#### ○武岡委員

ふるさと納税の寄附額を指標に追記することは検討いただけるとのことだが、どのくらい寄附がされているのか。

#### ○契約管財課 管財係

この事業開始前の平成25年度がふるさと納税として年間約130万円であった。

平成26年度から本事業が開始され、平成26年度が約260万円、平成27年度が約2,580万円、平成28年度が約4,820万円となっている。

#### ○武岡委員

これは江別市外の方が寄附しているので増収になるが、江別市民が他自治体に対して行っている金額は減収になるが、市外への流出額は分かるか。

#### ○契約管財課 管財係

市民税控除の部分になるが、市民税控除は前年1から12月にされた寄附額に対し、翌年度の市民税から控除されるため、時間差があり、説明しづらい部分もあるが、平成25年については市民が平成25年中にされた寄附額が約450万円、平成26年度の市民税から控除された額が約100万円であった。同様に、平成26年寄附額は約1,400万円、平成27年度市民税控除額は約400万円。平成27年寄附額は約4,900万円、平成28年度市民税控除額は約2,100万円。平成28年寄附額は約9,500万円、平成29年度控除額は約4,200万円となった。

## ○武岡委員

差し引きすると、増えているのか。それとも減っているのか。

## ○契約管財課 管財係

平成28年のふるさと納税額が約4,800万円をどうとるのだが、平成28年に市民が行った寄附額が、平成29年度の市民税から控除されるため、どう差し引きするかにもなる。平成28年のふるさと納税が約4,820万円に対し、平成29年度の市民税控除が約4,200万円となると、600万円程度だがふるさと納税収入が多いと考えている。年度を合わせると、平成27年度に市民が寄附した金額に対し、平成28年度の市民控除額約2,100万円を差し引きするのであれば、約2,800万円程度のふるさと納税増となるのではないと考える。

## ○井上委員長

そうすると事業名がふるさと納税普及促進となるのか。

## ○契約管財課 管財係

ふるさと納税の金額と市民税控除の関係について着目した場合の話であり、あくまでも金額を比較したということであればそのようなことになる。

## ○武岡委員

返礼品競争がかなり激しいとあったが、今年4月に総務省から通知が出され、返礼品は寄附額の3割以下、かつ換金性の高いものは控えるようにと指導があった。

今年度出された通知のため、影響が出るのは来年度以降になるが、今後、この事業に影響はあるか。

## ○契約管財課 管財係

現在、江別市において高額な返礼品はなく、換金性が高いものを贈呈していないため、目に見える形で表れることはないかと思う。一方で、低廉に事業展開を行うよう国から言われているので、寄附件数が増えていることから相対的に金額は増加傾向にあるが、1件当たりの単価はなるべく低くし、事業展開をしていきたい。

## ○山下委員

担当課において「成果指標」に金額を出さなかったことは、納税者数、いわゆるファンを増加させることに主眼があると考えているように感じる。

しかし、コストパフォーマンスが非常に重要だと認識している。その中で、金額の記載がないが約4,800万円と相当な金額である。武岡委員からの指摘どおり、純増はどうかという、そうでもないように感じる。掛かっている経費に対して純増はというと、コストパフォーマンスはどうか。それだけ事業費をかけて行う事業ならば、どれだけのファンが出来るのかについて、目に見える形で活動しなければ、「ふるさと納税者数」と挙げていても、コアな江別市ファンがどのくらい増えたのか目に見えるようなものが出てこなければ、事業の意義が市民に理解されないのではないかと危惧する。現状のふるさと納税を取り巻く環境変化は潮目になっていても、「事業を取り巻く環境変化」などに「江別は推進していく」と書き添えられるのであれば、市民は「江別はその環境でも続けていく」のかといっ

たように続ける意味を理解されていくのではないかと思うので、検討してほしい。

#### ○井上委員長

市民に理解できるように細かく記載をしていただきたいと指摘があったが、検討していただきたい。

ほかに質問が無いので「ふるさと納税普及促進事業」のヒアリングは終了する。

### (2) 平成29年度行政評価外部評価委員会における書面照会結果

#### ○井上委員長

平成29年度行政評価外部評価委員会における書面照会結果についてであるが、これは第3回委員会において内容を審議した書面照会対象の5事業について、担当課からの回答を資料2に取りまとめている。

まず、事務局から1事業ずつ説明をいただき、その後、各委員からの質問、確認等をさせていただきます。

それでは事務局よりご説明願う。

#### 【事務局から議事(2)説明】

- ・えべつ未来戦略 戦略1・4 事務事業評価表(平成28年度実績)【書面照会事業】
  - ・資料2 平成29年度江別市行政評価外部評価に係る書面照会事項(P1~P3)
- 事務局から「自治会活動等支援事業」「大学版出前講座支援事業」「大学連携調査研究助成事業」を説明

#### 【質疑】

#### ○井上委員長

各事業について1事業ずつ質疑を行う。

1事業目、「自治会活動等支援事業」について、各委員から何かご質問等あれば発言願いたい。

「手段」は丁寧に記載され、「女性の自治会活動」について追記されている。

#### ○武岡委員

「えべつ未来戦略 戦略1・4 事務事業評価表(平成28年度実績)【書面照会事業】」は、9月4日に行われた第2回外部評価委員会にて配付された資料から修正している部分はあるのか。

#### ○事務局

特にない。

#### ○山下委員

人口が12万人いる都市で、「成果指標」の「セミナー参加者数」が30人を目標としているが、これで良いのか、自治会は大丈夫なのか。この数値はかけたコストに見合うのかという疑問がある。「成果指標」として、例えば「自治会活動に参加したい市民割合」などを市民アンケートに盛り込むことは出来るのか。

担当課評価(3)「成果動向及び原因分析」について、照会事項「具体的に記載すべき」

に対する回答が、「アンケート結果を記載」とあるが、きわめて定性的な表現であり、具体的なのか疑問がある。

#### ○井上委員長

指摘をいただいた部分については、再度確認を取ることは可能か。

#### ○事務局

可能である。

#### ○武岡委員

照会事項「「成果指標」は、事業の意図に見合った指標を設定すべきである。」に対する回答が、「自治会活動への認識が深まり、自治会への参画意欲の向上を表す指標を設定」とあるが、自治会への参加自体ではなく、意欲の向上が指標になるのではないか。

「意図」を見ると、「市民等の自治会への参画意欲の向上が図られる」と記載があるが、自治会への加入率を高めるといった記載はされていない。この部分は「意欲の向上」で良いのか。

#### ○事務局

この事業については、内容が既に自治会に加入している方を対象にセミナーを行うこととなっている。自治会の加入率が上がると良いが、加入している方を対象にしているセミナーのため「意欲の向上」といった表現になってしまったと考えている。

#### ○武岡委員

「対象指標」に「市民」とあるが、これは全市民の数が記載されている。自治会に加入している人数ではない。

また、「手段」に「自治会活動の担い手となる人材を発掘、育成」とあるが、これだけでは自治会に加入している方が対象とは読み取れない。自治会に加入していない方でも良いように読み取れる。

#### ○事務局

指摘どおり、記載の仕方がそのように読み取れるため、分かりやすい表現にしていかなければならないと考えている。

江別市では、自治会の加入率が7割程度となっている。加入していない方に対して、江別市としては、加入していただけるようにするという考え方で行政を進めていくので、どう取り組むのかを示していかなければならないと考えている。

#### ○井上委員長

「事業を取り巻く環境変化」に「自治会の役割が重要視される」と記載があるが、「重要視される」、「自治会加入率7割」、「支援を行いもっと充実させていく」という論理でいくのならば、「意欲の向上」ではなく、「加入率を上げる」と担当部局の考えが入る表現が必要ではないか。一貫性が見えにくい。

ほかに意見がなければ、「自治会活動等支援事業」の質疑を終了する。

つづいて、2事業目、「大学版出前講座支援事業」について、各委員から何かご質問等あれば発言願いたい。

## ○山下委員

「意図」に「大学の取組を多くの市民等が理解する」と記載があるが、理解することが狙いではなく、理解してどうするのかを知りたい。

市民が理解することで江別市がどう良くなるのかを記載し、それに相応しい「成果指標」を設定することを意識した記載を検討してほしい。

## ○事務局

了。

## ○井上委員長

ほかに意見がなければ、「大学版出前講座支援事業」の質疑を終了する。

つづいて、3事業目、「大学連携調査研究助成事業」について、各委員から何かご質問等あれば発言願いたい。

この事業については最初の指摘が多く、書面照会を行った結果、記載が盛り込まれている。

## ○山下委員

「成果指標」の「補助事業本数」は、言い換えると「採択件数」である。「採択件数」は「活動指標」という認識であり、成果を表す指標として妥当なのか。

「事業を取り巻く環境変化」に「補助対象の主な研究テーマ」と記載がある。このテーマをどのくらい達成、推進されたのかが分かるような「成果指標」を記載すると、補助金を出し、どれだけの本数を採択し、このような成果が出たとなるのではないか。

検討の余地があれば、検討を願う。

## ○小野寺委員

「資料2 平成29年度江別市行政評価外部評価に係る書面照会事項」の「照会事項」に「担当課評価(3)「成果動向及び原因分析」において、具体的にどのようにまちづくりに生かされているのか記載すべきである」とあり、その回答として「まちづくりに生かされている旨を記載しました」とあるが、概要だけが記載されており、何をどのようにしたのかが記載されていない。記載したのであれば、内容が分かるようにすると良いのではないか。

## ○事務局

表現方法が抽象的で具体性に欠ける部分があるため、再度具体的な記載になるように再検討する。

## ○井上委員長

ほかに意見がなければ、「大学連携調査研究助成事業」のヒアリングを終了する。

つづいて、事務局から2事業について説明をいただき、その後、各委員からの質問、確認等をさせていただく。

それでは事務局よりご説明願う。

### 【事務局から議事(2)説明】

- ・えべつ未来戦略 戦略1・4 事務事業評価表(平成28年度実績)【書面照会事業】
- ・資料2 平成29年度江別市行政評価外部評価に係る書面照会事項(P4~P5)  
事務局から「えべつ市民カレッジ(四大学等連携生涯学習講座)事業」「えべつシティブ



## ロモーション事業」を説明

### ○井上委員長

4事業目、「えべつ市民カレッジ（四大学等連携生涯学習講座）事業」について、各委員から何かご質問等あれば発言願いたい。

説明の中で、「成果指標」の「えべつ市民カレッジ講座数」に「参加者数」の追加を検討とあったが、過去のリーフレット、資料の配付や大学のことなど、大体の数字は出ていないのか。講座を行う場合、報告書を作成すると思うので、数値が出ていると思う。

### ○事務局

大学独自の講座を「えべつ市民カレッジ」として行っており、大学で数値を取っていないものもある。

### ○井上委員長

講座を行う先生は、教室の広さなどで大体の人数を決めているのではないか。

### ○事務局

今後数値を教えてもらうなど協力していただかなければならない部分がある。大体であれば数値がとれるかを確認し、とっていない場合は協力を求め、得られるのであれば数値を教えてもらう形を取っていきたい。

### ○小野寺委員

市民カレッジは市から大学に対し、補助金は出ているのか。

### ○事務局

事務事業評価表の「費用内訳（主なもの）」に記載があるが、市からPRにかかる経費のみ124万1千円を補助している。

### ○小野寺委員

当委員会の中で、「参加人数」を事業の成果として図る必要があり、指標としてはどうかという話があったが、参加人数については報告を要件とするなど、市から促す取組をしていただきたい。妥当性や成果を図りやすい状況を整えていただきたい。大学が協力してくれるからではなく、税金を使用する責任において求めてほしい。

### ○事務局

了。

### ○千里副委員長

参加者数は大学で把握し、委員会で報告しているのではないかと思う。例外的に分らないこともあるかと思うが、基本的には行っていると思う。市から人数を報告してほしいと旨、大学側に確認すると教えてくれるのではないか。

しかし、人数が多ければ良いというわけではない。講座によってはバスなどの規模の関係により、人数を増やすことが出来ないという場合もあったため、一概に人数がすべてではないが、市民が何人参加したかは重要であるので、聞いていただくと良いと思う。

### ○井上委員長

それは「事業を取り巻く環境変化」に「講座が時代に応じて変わっていく」というような

記載をすると、明確になる。

「生涯学習の充実」と記載があるが、高齢化に向けて高校生以上の市民が生涯学習についてどのくらい関心を持ち、生涯学び続けたいと思っているのかに関して、現在の受講者は何%かを把握していなければ、プランニングが難しい。また、把握できていなければおかし

い。  
ほかに意見がなければ、「えべつ市民カレッジ（四大学等連携生涯学習講座）事業」の質疑を終了する。

つづいて、5事業目、「えべつシティプロモーション事業」について、各委員から何かご質問等あれば発言願いたい。

#### ○山下委員

書面照会の回答が、すべて「工夫、検討」となっており、回答になっていない。

プロモーションの必要性が見えてこない。企業誘致、定住、就業と言っているが、江別市に豊かさ、賑わいをどれだけもたらしめているかが、成果だと思うので、道内順位が何位かということとつながっているのかに疑問がある。

#### ○事務局

行政が行う事業は、先に計画や方針があって進めることが通常だが、この事業については、総合計画を作る時の未来戦略の中で、市民から人口の割に江別市の認知度が低いため、順位を上げてほしいという強い要望があり、実践しながら考えようと開始した。記載の仕方に軸が見えてこないことが読み取られ、指摘につながっていると思う。

#### ○井上委員長

担当として開始段階からこういう方向に持っていきたいという記載は難しいのか。

#### ○事務局

書面照会の結果にも記載があるが、「協議会」があり、官民一体となりプロモーションを進めていこうと話し合いながら、どのような取組を行うか進めている。その中での方向性が3年目で少しずつ見えてきたため、これから改善の余地がある。

#### ○井上委員長

事業計画ではなく、しっかり計画、予算を立て事業を進めていく方法と、市民の意見を基に歩み進めながら動く方法、それぞれの方法に良し悪しがある。「えべつシティプロモーション事業」に関しては、積極的にPRをするために、効果的に動きながら考えると受け止め、事務事業評価表の記載に関してはこれでよろしいか。

「手段」や「意図」に「江別シティプロモート推進協議会」と記載があるが、いつからいつまでの何年計画の協議会なのか。

#### ○事務局

この協議会は、平成26年度から開始したが、任期、期間はない。各団体の代表者が集まって行われている会議であり、人は入れ替わるが任期はなく続けている。

#### ○井上委員長

江別市が現在の認知度20位を、18位以上になること目標としていると、どのくらいで

終了年度になりそうか予測はあるのか。

#### ○事務局

直近の数字では、岩見沢市と紋別市と競っており、その2市を上回ると18位に入ることが出来る。

#### ○井上委員長

紋別市は道東で観光事業を積極的に行っているため、難しいのではないかと。

蛇足だが、江別太小学校は全国合唱コンクールでとても良い成績を収めていた。NHKで「江別市の江別太」と放送されていたが、江別市の説明が丁寧ではなかった。全国大会に行くような学校があれば、事前に取材があることは分かるので、そのような際にはワッペンを付けるだけでなく、事前にPRできるように広報戦略を練ってほしい。

#### ○山下委員

認知度が20位から18位になることは良いことだが、2つランクが上がってどうなるのか。「事業の開始背景」に少子高齢化への危機感が記載されている。「定住人口や交流人口を増加させる」ために認知度を上げるこの事業を行うとなっているが、「成果指標」が「順位」とはどうか。「定住人口や交流人口」が「成果」になるのではないかと。

順位ありきで開始してしまったことが良くなかったのではないかという思いがある。しかし、開始した以上は、単に順位を上げることが目的ではなく、順位を上げることでどういう成果があるのか、事業費に見合った効果があるのか。江別市の定住人口や交流人口の減少が抑えられるなどの効果を明確にしてほしい。総合計画の見直しに着手しているとは思いますが、そこを踏まえるとより良いまちづくりにつながると思うので、検討していただきたい。

#### ○事務局

了。

#### ○井上委員長

様々な意見が出たため、再度検討できるところはしていただきたい。

今回で、ヒアリング6事業、書面照会5事業を終了する。

各委員から頂いた意見も参考にしながら、事務局と協議を行い、外部評価結果案を取りまとめ、資料ができ次第、送付する。

次回委員会において、改めて外部評価結果案について検討していきたい。

### (3) その他

#### ○井上委員長

議事(3)その他について、各委員から意見があれば発言願う。

【各委員意見なし】

### 3 その他

#### ○井上委員長

次第3その他について、事務局から事務連絡等はあるか。

## 【事務連絡】

- ・ 第5回委員会日程の連絡

## 4 閉会